

出前授業を行うことで子供達の中に起きる 「介護の仕事」のイメージの変化について ～ 中学生を対象とした試みから ～

飴屋貴子¹、伊木康人²、小川文子³、藤本真樹⁴

1) 岩国市障害者サービスセンター 2) 済生会山口地域ケアセンター
3) 宇部市北部西地域包括支援センター 4) コネクト・ワン

I. 研究目的

我が国の 65 歳以上の高齢者は 2025 年には 3,653 万人となり、2043 年にはピークを迎えるといわれている¹⁾。介護ニーズはますます増加していくことが予想されているが、そのニーズに対応する介護の人材は未だに不足している現状にある。特に若い世代のいわゆる「介護業界離れ」は由々しき事態である。介護福祉士を育成する養成校(以下、養成校)では、年々入学者が減少しており、令和 5 年の定員充足率は 51.3%となっている²⁾。我が県においても例外ではなく、入学者の減少によって養成校が閉校、または学部の閉鎖が続いている。

先行研究である「平成 21 年度介護業界および介護職員に対する若者のイメージ報告書」では、若者たちは介護の仕事の必要性は十分に理解されているが、一方で、介護で働くことに「体力的にきつそう」、「給料が満足いく水準ではなさそう」、「休みがきちんと取れなさそう」というマイナスなイメージがあることが指摘されており³⁾、これらマイナスイメージが、若者が就職への進路を決める際に影響を及ぼしているのではないかと考える。

私達研究グループは、我が国のこのような現状を打破する為にも、子供達に介護の意義や専門性を伝え、介護の負のイメージを変えていくことが重要であると考え、平成 29 年より介護福祉士による出前授業「ふくしの寺子屋」という活動を開始した。また、さらに令和 4 年には「ふくしの寺子屋」の活動が子供達の「介護の仕事のイメージ」にどのように変化をもたらすのかを知るために研究活動もスタートさせた。本研究は中学生を対象とした試みを報告する。

II. 研究方法

1. 対象

2023 年月において A 市に在住する B 中学校と C 中学校の 2 年生 179 名(女性 81 名、男性 97 名、1 名性別に無記名があった。年齢 16～17 歳)を対象とした。

2. 調査方法

①社会授業の一環として一般社団法人山口県介護福祉士会による「ふくしの寺子屋」の授業を行う。授業の内容は 1) いのちの授業、2) 介護福祉士による「介護の仕事」のお話、3) 質疑応答。②対象者は

「ふくしの寺子屋」の授業を行う前と後に自記式質問紙に記入してもらった。

3. 調査実施期間

B 学校 2023 年 9 月 5 日

C 学校 2023 年 10 月 12 日

4. 主な調査内容

事前の調査票は、基本属性については性別の 1 項目を設定し、調査項目は①高齢者との触れ合いがありますか②(触れ合う方がおられたら)どのような方ですか③介護の仕事を知ったことがありますか④介護の仕事はどこで知りましたか、などの 4 項目と、「介護の仕事のイメージ」についての質問は自由記述で設定した。事後の調査票は「介護の仕事のイメージ」についての質問を自由記述で設定した

5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、B 中学校及び C 中学校へは調査目的の説明を行い協力の同意を得た。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、調査された情報のデータ管理についてはプライバシーの保護を厳重に行なった。

6. 分析方法

分析方法は自由記述に対して「介護の仕事のイメージ」と考えられる内容をコーディングし、KJ 法を用いて分析を行った。なお、分析は 4 名の共同作業で行っている。

III. 結果

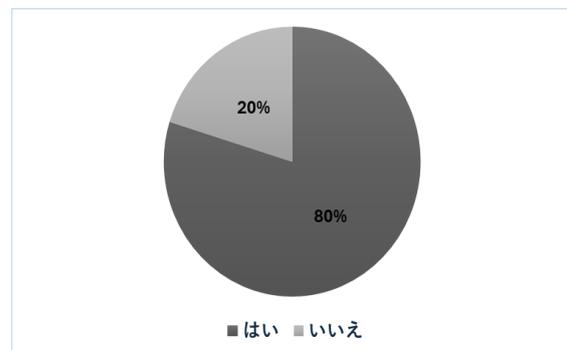


図 1. 「介護の仕事」を知ったことがありますか? (n = 179 人)

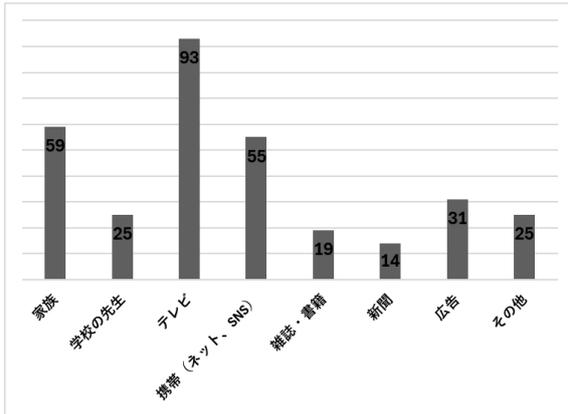


図 2. 「介護の仕事」をどこで聞きましたか？ (n = 179人) 複数回答

2. 「ふくしの寺子屋」の授業の前の「介護の仕事のイメージ」の結果

KJ 法における図解化にあたって、大グループを【 】, 中グループは< >で示した。

表 1. 「ふくしの寺小屋」の授業前の「介護の仕事のイメージ」

大グループ	中グループ	小グループ	代表的なコード
高齢者を支える仕事	高齢者を手伝う仕事	高齢者を補助する仕事	わかい人が年寄りの生活のほじよをする仕事/高齢者のほじよをする
		できないことを手伝う仕事	高齢者の方が1人じゃできない事を手伝う/お手伝いしてあげる仕事
	高齢者を見守る仕事	人を助ける仕事	生活を助ける仕事/体が不自由な人を助けたりする
		人をサポートする仕事	体の不自由な人や高齢者などをサポートする仕事/老人の暮らしをサポートする
介護の仕事をしている人	介護職員のイメージ	介護の職場のイメージ	やさしそう/人と接するときはずっと笑顔
	よりそう	よりそう	入居さんの最後によりそう人/病気の人以上よりそう
介護という仕事		トイレの手伝い	トイレに行く/おじいちゃんおばあちゃんをトイレに行かせたり
		介護のお仕事はお世帯	高齢者をお世帯する/高齢者のお世帯をしたり
		食事の支度をします	ごはんをあげるイメージ/おじさん、おばさんのごはんを作る
		高齢者を介護する	体が不自由な方や高齢者の方をかかご/おじいちゃん、おばあちゃんを、介護する仕事
介護という仕事		高齢者と話し相手になる	高齢者のはなし相手になったり/話したりする仕事
		高齢者を楽しませる	歌を歌ったり、ダンスを聞いたりして、高齢者を楽しませる/一緒に運動したり
介護という仕事	働く場所のイメージ	働く場所のイメージ	老人ホームで働く/老人ホーム
		話しそう	話しそう/優しい
大変そう	大変な仕事	忙しい	いそがしい/いそがしい...
		大変そうな仕事	大変/大変そうで、てつやしてそう
やりがいがある仕事	やりがいがある仕事	やりがいがある仕事	大切な仕事/大変そうだけどやりがいはある仕事
		体力が必要	体力が必要な仕事/体力が必要そう

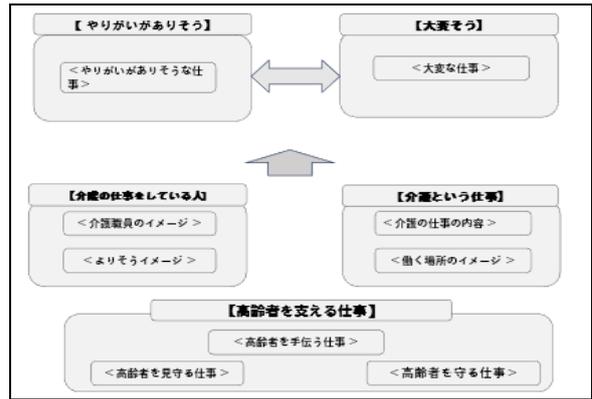


図 3. ふくしの寺子屋の授業前の「介護の仕事のイメージ」について

3. 「ふくしの寺子屋」の授業の後の「介護の仕事のイメージ」の結果

KJ 法における図解化にあたって、大グループを【 】, 中グループは< >で示した。

表 2. 「ふくしの寺小屋」の授業後の「介護の仕事のイメージ」

大グループ	中グループ	小グループ	代表的なコード
介護は素敵な仕事だと気が付いた	思ってたより介護はいい仕事	実は介護はいい仕事	介護のイメージがよくなかったのでイメージを変えることができてよかったです
		面白いけど楽しい仕事	介護は面白いイメージがありましたが以外と楽というところが慣れてよかったです
		思ってたより働かやすい仕事	介護の仕事は残業などがほぼなくてとてもホワイトな会社
		大変だけどやりがいがある仕事	とても大変だけどやりがいがある/介護の仕事は大変だけど、とてもやりがいがある仕事
介護の仕事は気をつけて大変な仕事	介護の仕事は気をつけて大変	介護の仕事は大変	介護の仕事は大変/早いときは8時で働きすぎた大変な仕事
		人を助ける存在	高齢者や体の不自由な人の生活を支える仕事/介護士の人間が不自由な人達を支えている
心優しいヒーローがする仕事	安心や生きる希望を与える仕事	命を大切に仕事	命の大切さや生きていくことの意義をみなども深く関わっていくと分かってくるのかなど思いました
		安心や元氣や希望を与える仕事	介護の仕事は高齢者の方に安心や希望や元氣を与えていくんじゃないかと
笑顔にしてくれる仕事	利用者さんを楽しませる仕事	利用者さんを楽しませる仕事	高齢者の方ともゲームをしたりして意外な交流がある
		笑顔にしてくれる仕事	笑顔がたくさん見れたりうれいこともある瞬間/みんなを笑顔にさせてくれる人達というイメージ
楽しくてやりがいのある仕事	元氣がもらえる仕事	元氣がもらえる仕事	高齢者の方ともゲームをしたりして意外な交流がある
	一緒に楽しめる仕事	一緒に楽しめる仕事	高齢者とふれあえる楽しい仕事/人との距離が近く沢山のひとと一緒に楽しめる仕事
生活のサポート	日常生活のお手伝い	日常生活のお手伝い	生活の不自由な高齢者の人達のお手伝い/介護は人に色々手伝ったり
	相手の事を考えながらする仕事	相手の事を考えながらする仕事	介護は高齢者や生活がしにくい人の心や体をサポートすることだと知りました
コミュニケーションが必要な仕事	コミュニケーションが必要な仕事	コミュニケーションが必要な仕事	人との関わりを持ってた皆さんのコミュニケーションが必要だと感じました
		コミュニケーションが必要な仕事	とても重要な仕事だと感じました/介護の仕事はみんなをかんじと理解はできないけど、とても大切な仕事だと感じました
多様な場面がある仕事	多様な場面がある仕事	多様な場面がある仕事	訪問、リハビリがあるんだと思いました/老人も色々いるし、仕事の内容も色々なんだ
		多様な場面がある仕事	安全に行うことができたと同時に助け合いも大切にしている/皆が一つになって盛り立つ仕事のイメージ
目で協力し合う仕事	目で協力し合う仕事	目で協力し合う仕事	遠隔・遠隔
		目で協力し合う仕事	遠隔・遠隔

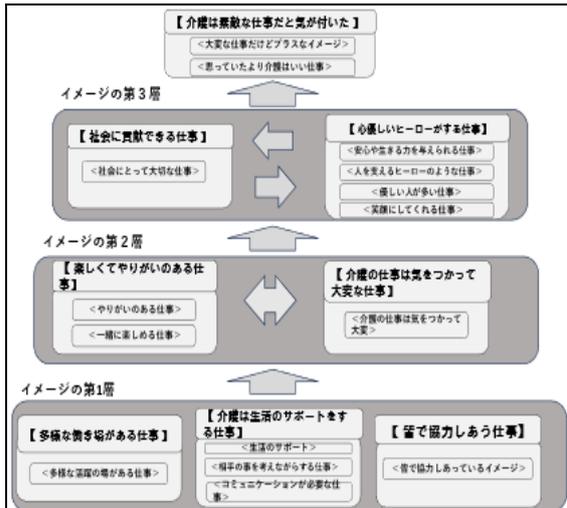


図4. ふくしの寺子屋の授業後の「介護の仕事のイメージ」について

IV. 考察

1. ふくしの授業を受ける事前の結果について

図1及び図2から、80%の子供が「介護の仕事」について聞いたことがあると答え、その情報源はTV、家族、SNSから得ていることが分かった。子供達が抱えている介護の仕事のイメージをKJ法によって分析した結果、表1のように9つの中グループから【やりがいがありそう】、【大変そう】、【介護の仕事をしている人】、【介護という仕事】、【高齢者を支える仕事】の5つの大グループが抽出することができた。【やりがいがありそう】は介護の仕事はやりがいがありそうというイメージであり、【大変そう】は介護の仕事は忙しそうで体力が必要な仕事というイメージであった。【介護の仕事をしている人】は仕事をしている介護職員のイメージであり、【介護という仕事】は高齢者に対してトイレへの誘導をすることや食事介助を行うなど介護場面をイメージしたものであった。また、【高齢者を支える仕事】は介護の仕事は高齢者のできない部分を手伝うことや高齢者を見守るといった介護を行う目的についてイメージしたものであった。

以上、5つのイメージを抽出し、さらにグループ間の図解化と記述化を行った(図3)子供達は、TV、家族、SNSから介護の仕事の情報を聞いたことによって、最初に【介護の仕事をしている人】、【介護という仕事】、【高齢者を支える仕事】を想起させた。この3つのイメージは、受け取った情報がそのまま子供たちの中に残ったものである。そして、3つのイメージを持つことによって、子供たちは介護の仕事について「考える」きっかけが生まれたと考える。【介護

の仕事をしている人】、【介護という仕事】、【高齢者を支える仕事】という3つのイメージを浮かべることで、介護の仕事はやりがいがありそうだなという【やりがいがありそう】と、大変な仕事だなという【大変そう】の2つのイメージを連想させた。この【やりがいがありそう】と【大変そう】は一見相反するように見えるが、そうではなく、前回の私たちが高校生を対象に行った研究⁴⁾でも見られたように「介護の仕事は大変な仕事であるが、それだけにやりがいがある仕事だ。」また、「介護の仕事はやりがいがあるからこそ、それだけに大変な仕事だ」というお互いの存在で成り立つ関係を持っていた(図3)。

2. ふくしの授業を受けた事後の結果について

ふくしの授業後の結果、表2のように15の中グループを抽出し、【介護は素敵な仕事だと気が付いた】、【介護の仕事は気をつけて大変な仕事】、【心優しいヒーローがする仕事】、【楽しくてやりがいのある仕事】、【生活のサポート】、【社会に貢献できる仕事】、【多様な働き場がある仕事】、【皆で協力し合う仕事】の8つの大グループを抽出した。【介護は素敵な仕事だと気が付いた】はふくしの授業にて介護の仕事の話聞くまでは実はいいイメージ持っていなかったが、実際に働いている介護福祉士からお話を聞くとイメージが良くなったこと。【介護の仕事は気をつけて大変な仕事】は話を聞くとやっぱり介護の仕事は大変だというイメージ。【心優しいヒーローがする仕事】は、人を支え、そして笑顔にしてくれる仕事はまるでヒーローのようなイメージであり、【楽しくてやりがいのある仕事】は高齢者とふれあいがながらする仕事は介護職員も一緒に楽しめるため、やりがいがある仕事のイメージ。【生活のサポート】は実際の介護の場面や高齢者とのコミュニケーションをする必要性や、さらに相手の事を考えながらする仕事だというイメージ。【社会に貢献できる仕事】は社会にとって重要な仕事であるというイメージであり、【多様な働き場がある仕事】は介護の仕事は訪問やリハビリなどいろいろ働く場所があり、仕事の内容も様々だというイメージ。【皆で協力し合う仕事】は、助け合いや皆が1つになって行う仕事にイメージであった。

以上、8つのイメージについてグループ間の図解化と記述化を行った(図4)。ふくしの授業にて実際に働いている介護福祉士の話聞くことで、子供たちはまず【生活のサポート】、【多様な働き場がある仕事】、【皆で協力し合う仕事】の3つのイメージを持

つことになった（以下、イメージの第1層）。さらに子供たちはこの3つのイメージを基に【介護の仕事は気をつかって大変な仕事】と【楽しくてやりがいのある仕事】を連想させた（以下、イメージの第2層）。この一連のプロセスは介護福祉士から聞いた話（情報）がそのままイメージとなり、介護の仕事には「大変さ」と「やりがい」があることに気が付くというものである。これは事前の結果と同じであるが、事後では実際に働いている介護福祉士から話を直接聞いたことにより、さらに【社会に貢献できる仕事】と【心優しいヒーローがする仕事】（以下、イメージの第3層）を新たに連想させた。イメージの第2層である「大変さ」と「やりがい」がある介護の仕事から、とても大変な仕事であるがやりがいもある。社会にとってとても大切な仕事であり、まるで人を支える心優しいヒーローがする仕事のように、というイメージを持つことになったと考える。

以上、介護福祉士から実際の介護の仕事の話を書く事によって、子供たちはイメージの第1層から第3層のプロセスを経ている。そして最後に、「やっぱり介護はいい仕事なんだな」という【介護の仕事は素敵だと気が付いた】が連想され、さらなるポジティブなイメージへとつながることになったと考える。

3. まとめ

子供たちはTV、家族、SNSから介護の仕事の情報を受け取り、すでに「大変さ」や「やりがい」についてある程度のイメージを持っていた。しかし、ふくしの授業にて実際に働いている介護福祉士からの話を聞くことによって、より具体的なイメージをもつことができ、ポジティブなイメージに繋がったことはこの活動の有意義性を証明できたのではないかと考える。また、ふくしの授業では偏った情報を子供たちが得ることがないように配慮しており、介護の仕事は「楽しさ・やりがい」もあるが、「大変さ」もあることも伝えるように心がけている。出前授業などにおいて介護の「楽しさ・やりがい」を伝えることは大切であるが、本研究においては介護の仕事の「大変さ」もしっかりと伝える事も重要であることが示唆されたと考える。今後も私たち研究チームはさらに幅を広げて調査研究を進めていく予定である。

V. 結論

ふくしの授業を行う前は、子供たちはTV、家族、SNSから介護の仕事の情報を受け取っており、【やりがいがありそう】、【大変そう】、【介護の仕事をして

いる人】、【介護という仕事】、【高齢者を支える仕事】の5つのイメージを持っていた。子供たちは聞いた情報を受け取り、自身の中で介護の仕事について考えるきっかけが生まれ、「介護の仕事は大変な仕事であるが、それだけにやりがいがある仕事だ。」また、「介護の仕事はやりがいがあるからこそ、それだけに大変な仕事だ」というイメージを想起させていた（図3）。授業を行った後は、【介護は良い仕事だと気が付いた】、【介護の仕事は気をつかって大変な仕事】、【心優しいヒーローがする仕事】、【楽しくてやりがいのある仕事】、【生活のサポート】、【社会に貢献できる仕事】、【多様な働き場がある仕事】、【皆で協力し合う仕事】の8つのイメージを持っていた。実際に働いている介護福祉士の話を書く事でイメージがより具体的に描くことができ、イメージの第1層から第3層のプロセスを経ることで、さらにポジティブなイメージへと繋がっていった。つまり、【介護の仕事は素敵だと気が付いた】に至ることができたと考える（図4）。

謝辞

本研究にあたり快く御協力くださった子供達に深く感謝いたします。

引用参考文献

- 厚生労働省（2024）「今後の高齢者人口の見通しについて」
(https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-1.pdf)
- 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（2024）「令和6年度介護福祉士養成施設の入学定員充足状況等に関する調査」
(<https://kaiyokyo.net/news/fad13654a8523e2746f7b3c8eb6d65d485bae569.pdf>)
- 社会福祉法人神奈川県社会協議会（2009）「平成21年度介護業界および介護職員に対する若者のイメージ報告書」
(http://www.knsyk.jp/s/shiryou/image_chosa.html)
- 飴屋貴子, 伊木康人, 小川文子, 藤本真樹（2022）「出前授業を行うことで子供達の中で起きる「介護の仕事」のイメージの変化について」
(<https://www.yamaguchi-kaigo.jp/wp-content/uploads/2024/06/171893062651814.pdf>)